

DOCUMENT 1/1
DOCUMENT NUMBER
@: unavailable

1. JP.02-086090.U(1990)

日本国特許庁(JP) ①実用新案出願公開

② 公開実用新案公報(U) 平2-86090

③ Int. Cl.⁴ 発明記号 庁内整理番号 ④公開 平成2年(1990)7月6日
H 01 R 33/78 6749-5E
13/82 8623-5E
12/83B Z 8623-5E

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全2頁)

⑤考案の名称 ICソケットのレバー停止構造

⑥実 願 昭63-165947

⑦出 願 昭63(1988)12月22日

⑧考 案 者 中 野 秀 孝 東京都港区高輪3丁目26番33号 日本パナダイ株式会社 内

⑨考 案 者 石 井 幹 也 東京都港区高輪3丁目26番33号 日本パナダイ株式会社 内

⑩出 願 人 日本パナダイ株式全 東京都港区高輪3丁目26番33号 社

⑪代 理 人 弁護士 小林 正祐

⑫実用新案登録請求の範囲

(I) ハウジングAの上に設けたカバーBをレバーDの回転操作によってスライドさせるようにしたICソケットにおいて、前記ハウジングAまたはカバーBのいずれか一方の側面に前記レバーDを係止する弾性係止片1が形成され、同弾性係止片1はカバーBの外側面の外側に突出し、且つ同外側面との間に隙間2ができるように形成されていることを特徴とするICソケットのレバー停止構造。

(II) ハウジングAの上に設けたカバーBをレバーDの回転操作によってスライドさせるようにしたICソケットにおいて、前記ハウジングAの側方に前記弾性係止片1の外側に係止されたレ

バーDを支持する支持部3が設けられ、前記支持部3は基板Eへの実装時に両支持部3の底面4が同基板Eに支持されるようにしたことを特徴とするICソケットのレバー停止構造。

⑬図面の簡単な説明

第1図aは本考案のレバーの停止構造の一実施例を示す斜視図、同図bは同図aの縦断図、第2図は本考案のレバー停止構造の他の実施例を示す縦断図、第3図は従来のICソケットの使用説明図、第4図aは従来のレバー停止構造を示す斜視図、同図bは同図aの縦断図である。

1は弾性係止片、2は隙間、3は支持部、4は支持部の底面、Aはハウジング、Bはカバー、Dはレバー、Eは基板。

-237-

BACK NEXT

JP.02-086090.U

◎ STANDARD ○ ZOOM-UP ROTATION No Rotation ☒ REVE

RELOAD

PREVIOUS PAGE

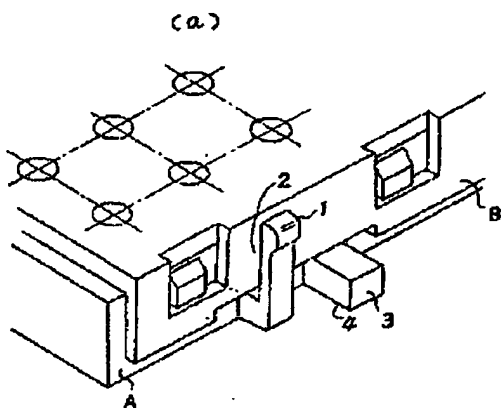
MENU

SEARCH

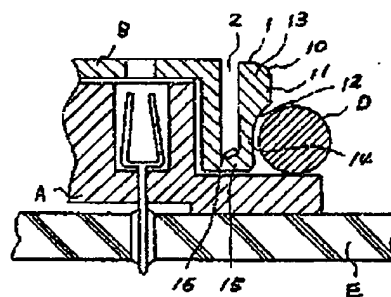
NEXT PAGE

HELP

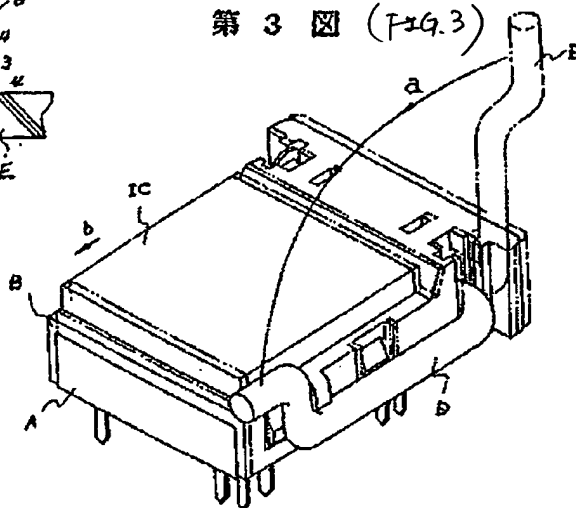
第 1 図 (Fig. 1)



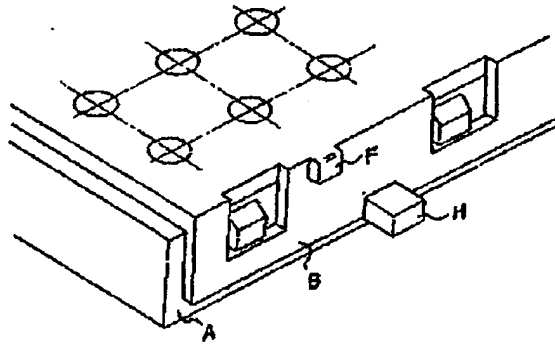
第 2 図 (Fig. 2)



第 3 図 (Fig. 3)



(Fig. 4)
第 4 図 (a)



(b)

